

平成28年（行ウ）第49号，同第134号，同第157号

高浜原子力発電所1号機及び2号機運転期間延長認可処分等取消請求事件
原告 河田昌東 ほか110名
被告 国

準備書面（33）

（古い電気製品等との比較）

2018（平成30）年10月11日

名古屋地方裁判所 民事9部A2係 御中

原告ら訴訟代理人弁護士 北村 栄 ほか

本書面においては，40年以上前の電気製品等との比較をする中で，老朽原発の問題性について述べる。

1 古い電気製品等と比較する意味

本件の高浜原発1号機は1974年11月14日，同2号機は1975年11月14日にそれぞれ運転を開始した原発であり，稼働して，本年44，43年目となる。そして，20年間の運転延長が認められれば，運転開始から60年もの間稼働し続けることになる。すなわち，現時点から見ても40年以上前の，運転延長後には60年も前の技術や設計に基づく原発が稼働するということになる。

技術は日進月歩で進んでおり，新製品が年ごとに出るといふ我々の周りにある電気製品等と比べてみれば，老朽原発が運転を続けるということがどういふことなのかが明らかになる。

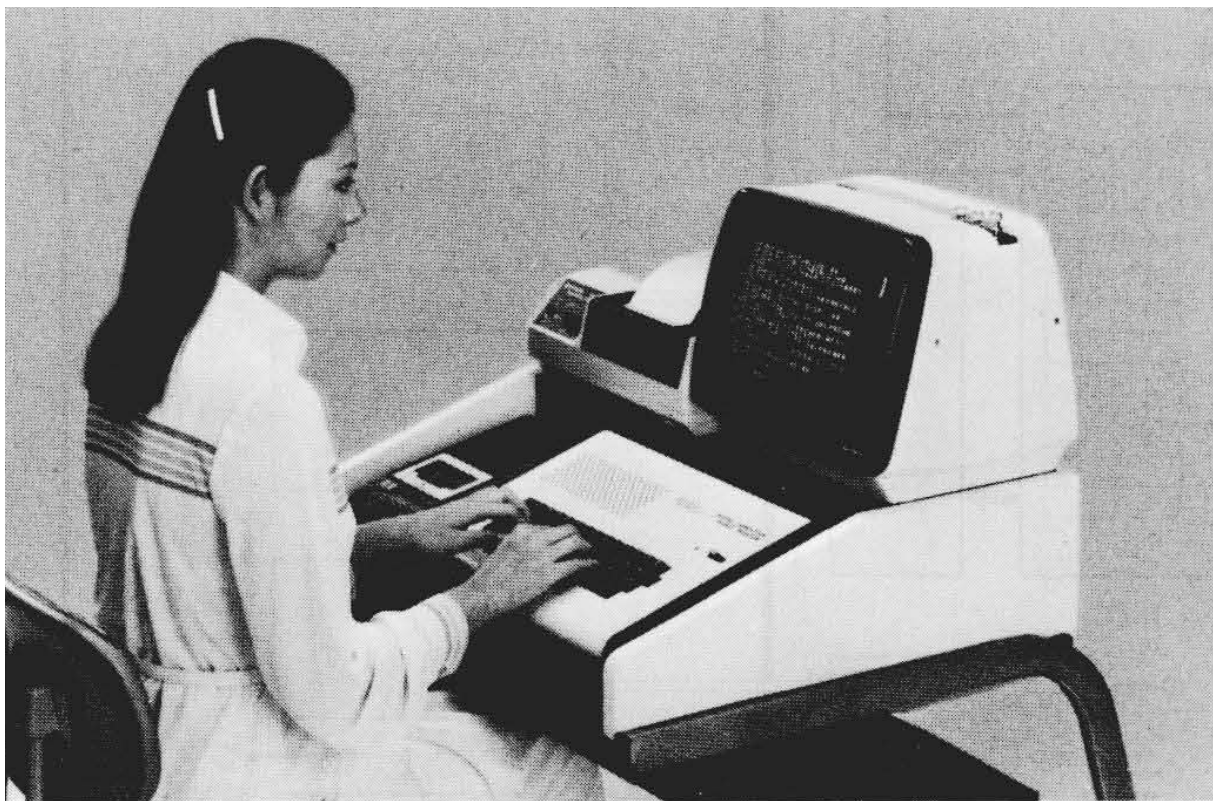
そこで，以下，本書面において，我々の周りにある電気製品等の一昔前の姿

を概観する。

2 具体的製品等の概観

(1) パーソナルコンピューター

下の写真は、今から約40年前の1978年、日立製作所が発売した国産第一号のパソコン「ベーシックマスター」である。その機能は、プログラムの作成、家庭用カセットテープレコーダを用いたプログラムの保存、文字（英数字、カタカナなど）や図形の表示といったものに限られていた。



ベーシックマスターが発売されてから約40年が経過した今、パソコンは大きな進化を遂げている。画面の薄型化等の外観の変化はもちろんのこと、文書作成や表計算、作図、イラスト・動画・漫画の作成、写真の加工、インターネットを利用した調べ物、動画や電子書籍の閲覧、ネットショッピング、株取引、テレビ電話、音楽鑑賞、ゲームなど、数え切れないほどのことがパソコン1台

のできるようになった。

(2) 携帯電話

下の写真は、今から約30年前の1985年9月、NTTが発売した国内初の携帯可能な電話機「ショルダーフォン」である。ショルダーフォンは、重量が約3キログラムと重かったため、ショルダーバッグのように肩から提げて持ち運ぶ必要があった。一方で、連続通話時間は約40分にすぎず、その機能は通話に限られていた。



ショルダーフォンが発売されてから約30年が経過し、携帯電話の技術も大きく進化した。今や国民1人1人が当たり前のように持ち歩くようになったスマートフォンは、重さ百数十グラムまで軽量化・小型化した。連続通話時間はiPhone Xで約21時間にまで伸び、その機能も現在のパソコンに近いほど多機能かつ高性能になっている。

(3) テレビ

下の写真は、今から約47年前の1971年、三洋電機が発売した日本初のリモコン式カラーテレビ「ズバコン」である。リモコンの白いボタンを押すと超音波が発せられる。それを受け、テレビ本体に付いているチャンネルつまみがモーターによって強制的にガチャガチャと回る仕組みになっている。チャンネルつまみは同一方向にしか回らないため、行き過ぎるともう一周回さなければならない。また、超音波で通信するため、身の回りの生活音によって勝手にチャンネルが切り替わるなどの誤作動が起こった。

SANYO

三洋電機株式会社

カラーはリモコンで楽しむ時代!

三洋リモコンカラー

(株)三洋電機



20型18型の卓上タイプも揃いました。明るいカラー、鮮やかな画質で好評! (有線社)

● 明るさ15倍の「ハイコン」トランスミッター (有線社)

● ビントもカラーもノータッチの「IC自動調整」 (有線社)

● 瞬間受像で、電気代も自派なみの「ICトランススタ式」 (有線社)



ズバコン
20-CTR910R 標準価格 **169,000円**
(アンテナ代、アンテナ工事費、送料)

● IC-2倍 ● シリコントランススタ-43E
● サイズ-幅85.6-高さ87.5-奥行54.5 ● 重量-10kg
● 消費電力-145w

超音波 遠隔操作方式

ズバコン

20-CTR930R 標準価格 **149,000円**
(アンテナ代、アンテナ工事費、送料)

専用テレビ台(別売)TD-520標準価格5,000円
● IC-2倍 ● シリコントランススタ-42E
● サイズ-幅75.7-高さ51.2-奥行54.5 ● 重量-10kg ● 消費電力-145w



ズバコン
18-CTR950R 標準価格 **139,000円**
(アンテナ代、アンテナ工事費、送料)

専用テレビ台(別売)TD-404標準価格5,000円
● IC-3倍 ● シリコントランススタ-54E
● サイズ-幅85.6-高さ55.9-奥行53.4 ● 重量-10kg
● 消費電力-135w

10メートル離れたところからでも
超音波で、チャンネル・ボリューム・ON・OFFが
自由に操作できる話題の「ズバコン」

● お求めはサンヨーストア・デパートで ● 分割払いのご相談はリスの電販のお店で ● アフターサービスはお買上げのお店で……

jaa2100.org

ズパソコンが発売されてから約47年が経過し、家庭用テレビも大きな進化を遂げた。テレビ本体からはチャンネルつまみはなくなり、「チャンネルを回す」という表現は、もはや使われなくなった。現代の赤外線リモコンテレビには、生活音による誤作動など皆無である。テレビ画面はより薄く、より鮮やかになり、2017年には8K対応液晶テレビが発売されるに至っている。その機能も、番組検索機能、同時録画機能、インターネット接続機能など多様化している。

(4) VHSビデオ

下の写真は、今から約40年前の1976年、日本ビクターが発売した日本初の家庭用VHSビデオ「HR-3300」である。テープはカセットタイプで、標準録画時間は2時間にすぎなかった。販売価格は、当時の金額で25万6000円、留守番録画のできる時計内蔵の専用取付式タイマーは別売りで1万円であった。



日本ビクターが「HR-3300」を発売して以降、VHSビデオは広く

普及した。しかし、当時から約40年経った2016年、国内すべてのメーカーがVHSビデオの生産を終了した。VHSビデオよりもはるかにコンパクトかつ高画質で、画質の劣化も少ないDVDやブルーレイディスクが主流となり、VHSビデオは過去のものとなった。

3 老朽原発の再稼働

上記2で概観したように、約40年間で技術水準は著しく向上した。もはや、40年以上も前の技術や製品で現在も使われているものはほとんどないといっ
てよい。そのような中、本件の高浜原発1号機、同2号機は、今から約44、
43年前にそれぞれ運転を開始したものが、現在も用いられている。

原告準備書面(17)で詳しく述べたとおり、1970年代の原発は、その設計の旧さ、材料の旧さ、施工・検査技術の旧さなどから、近年の原発に比べ、事故やトラブルを起こす危険性が高く、かつ、重大事故に至りやすいことがわかっている。福島第一原発事故において、非常用電源を配電する電源盤の全てあるいはほとんどを、ほぼ同時に喪失したのは、電源盤の配置設計の旧さが大きな原因であった。

原発は、膨大な数の配管やケーブルなどの部品の集合体であり、それが精密に作動することが要請される機械である。一方で、原発は、一度事故を起こせば、極めて広範な地域に大量の放射性物質をまき散らし、生き物の遺伝子を傷つけ、地域の伝統や文化を根こそぎ破壊し、将来世代にわたり取り返しのつかない甚大な被害をもたらす。

そのような、高度の精密性と、深刻な災害が万が一にも起こらないことが要請される原発で、40年以上も前のものを更に延長して動かすことに対し、大多数の国民は大きな不安を抱いている。平成29年11月7日付けの福井新聞の記事(甲G205)によれば、世論調査の結果、原発立地県で原発の稼働に肯定的な意見が圧倒的に多い福井県においてさえも、40年超の原発については運転延長

を否定する割合が半数を超えている。原発の中でも、とりわけ40年超の老朽原発に対し、大多数の国民が強い不安を抱いていることは明らかである。

裁判所は、40年以上も前の原発を更に延長して動かすことの危険性と、老朽原発に対する国民の不安を感じ取り、本件老朽原発に関する原子力規制委員会の審査を厳格に判断すべきである。

以上